



中高一貫教育の展望と 広尾だからできる学び

皆添 英二

みなぞえ

えいじ

広尾町中高一貫教育連絡協議会長
北海道広尾高等学校校長

本年度（平成29年度）北海道広尾高等学校長として、赴任した皆添英二校長。広尾町中高一貫教育連絡協議会長として、これからの中高一貫教育の方向性や展望等について、お話を伺いました。

--- 広尾高校と広尾中学校の連携型中高一貫教育の今後の目指す方向性について、どのようにお考えですか？

平成18年度にスタートした、『広尾地区連携型中高一貫教育』で目指した方向性にブレはありません。すなわち、その理念のとおり、「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きぬく人を育てる。～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」です。

--- 方向性を変えない、ということは一定の成果があった、ということですか？

もちろんです。この10年余、試行錯誤しながら様々な取組をしてきました。成果がないわけがありません。

「中高一貫研究集録平成17年度版」の巻頭言にこうあります。「中高一貫教育の実践の柱は、『基礎・基本の確実な定着』です。（中略）そのためには、組織的で効果的な取組が求められます。基礎・基本の定着は、小学校（幼稚園・保育所）からの一貫性や積み重ねがあってはじめて成果が上がります。」と。

このことを受け、6つの中高合同分掌部会で、当該年度の実践テーマを決め、協議を重ねてきました。また、8つの中高教科部会では、生徒の実態に合わせた具体的で実践的なプランを協議してきたのです。

これらの取組により、学習指導の深化、中学生の学習意欲の向上、中高間の部活動の交流が盛んになるなどの成果があり、方向性は間違っていなかったと確信しています。今後は、この方向性で、更なる高みを目指したいと思います。

--- それでは今後の展望についてお聞かせください。

成果はありましたが、課題がないわけではありません。更なる高みを目指すためには、今まで通りの取組では、前進はありません。課題は3つあります。

1つ目は、先ほどの巻頭言にあったように、小学校との連携です。小学生もいずれは中学生になるのですから、12年間を見通した学習指導や交流が不可欠になります。今までも本校でのインターンシップ発表会に小学6年生が参加するなど交流を図ってきましたが、今後、更に小中高間の連携を充実・深化させるべきと考えます。

2つ目は、「地域の教育力の結集」です。広尾は教育資源の宝庫です。例えば、文化面では、十勝神社は、創祀351年の由緒ある神社です。また、広尾町は来年、150年目の節目を迎えます。このように広尾町は十勝で1番歴史のある町であり、様々な歴史的価値のある文化財を有しています。産業面では、十勝港は、「農業王国十勝」における唯一の海の玄関口であるとともに、国際貿易港としての利用が高まってきています。この地元企業で働くためには、語学力が問われるそうです。興味が湧くでしょう。また、広尾町は、漁業というイメージがありますが、夏は涼しく、冬は暖かいことから、広尾町の農業生産額の95%以上を酪農・畜産が占めるほど、酪農が盛んな地域です。さらに、林業も…。漁業・農業・林業と三拍子そろっている町は、そうそうあるものではありません。観光面でも枚挙に暇がありませんが、要するに、教える側も学ぶ側もすべての人がこの魅力に気づいているとは言えない、ということです。教師がその魅力に気づかなければ、生徒が魅力を感じる機会も減ってしまいます。それは、広尾町でなければ得られない「学び」を創ることがいかに大切かということに繋がります。それこそ「広尾の子どもは広尾で育てる」です。

3つ目は、やはり生徒募集。中学生の保護者から、今、広尾高校に望むことを的確にとらえることが重要です。広尾高校が地元の中学生に魅力的に映らなければならぬ、ということです。

--- 広尾だからこそできる「学び」とはなんですか？

例えば、防災。十勝港は、日本有数の食糧基地「十勝」を背後に持つ物流拠点港湾であり、地震・津波等の大規模災害により港湾機能が停止した場合の影響は甚大なものとなることから、十勝港の港湾BCP（※注1）が策定されています。これを学ばない手はないでしょう。

※注1：港湾の事業継続計画

例えば、流通。先ほど触れましたが、野塚・豊似地区の酪農家を訪ね流通経路を辿る。逆に飼料はどこから？そこには、道内最大級の飼料コンビナートの存在が…。

このように広尾だからこそできる「学び」の要素がいくつもあることがお分かり頂けると思います。

また、インターンシップやボランティア活動等で、地元の経営者の仕事を手伝うだけでなく、その考え方や戦略を知ることです。地域の課題を知り、その解決策を模索することで、自分自身の進路選択につなげていく「学び」です。地域が学びの場になることで地域力が増し、ひいては広尾町の活性化につながっていく。まさに一石二鳥です。

さらに、「第2期ひろお未来塾」の開講があります。これに、本校生徒が3名参加しています。各界の専門家から『まちづくり』の戦略を学び、自らも考え、自分自身の成長の糧とするとともに、在校生に還元してくれるものと期待しています。これこそ広尾ならではの「学び」です。

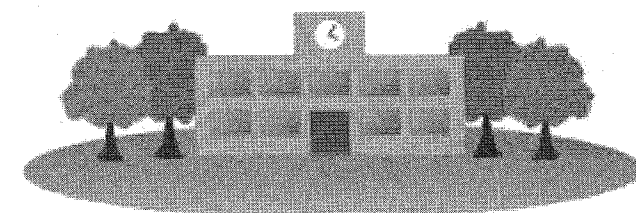
--- 最後に、望む生徒像をお聞かせください。

これも、先ほどの巻頭言を紐解きましょう。

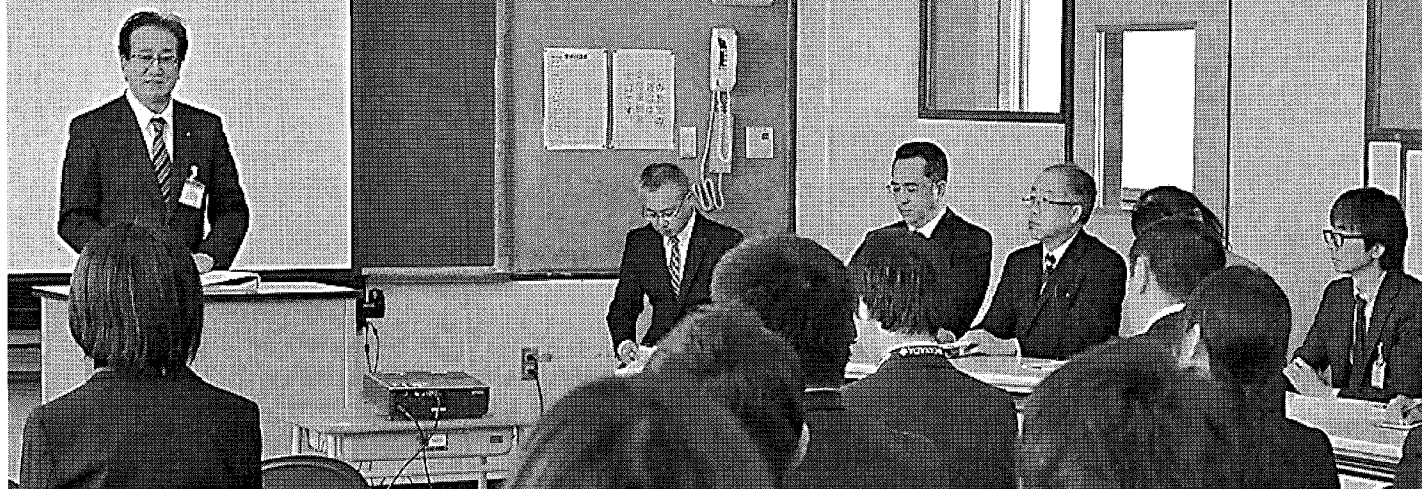
- ①『確かな学力』を身につけ、自ら学び、考える生徒
 - ②豊かな人間性や社会性を培い、自己実現に努力する生徒
 - ③地域に学び、地域に貢献する生徒です。
- これを変える訳にはいきません。

◇まだまだお話は尽きませんが、ひとまずはこれで中高一貫インタビューを終了させていただきます。皆添校長先生、ありがとうございました。今後も中学校と高校間の連携がさらにいっそう進展し、広尾町中高一貫教育が今後も継続することを祈念してこのインタビューを終わります。

《聞き手 / 広報啓発部会 岡部哲也（広尾高等学校教諭）》



中高合同部会議を開催しました



去る5月2日（火）に広尾中学校にて「中高合同部会議」を開催しました。基本理念は「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きる人を育てる」です。広尾中と豊似中が統合したことを踏まえた計画立案について、広尾町教育委員会の関係者や広尾中学校、広尾高校の教員が協議をしました。

今年度は進路指導部会と総学部会が合併し、5つの部会で協議をしました。また、総学とは「総合的な学習の時間」の略です。各部会の実践テーマを紹介します。

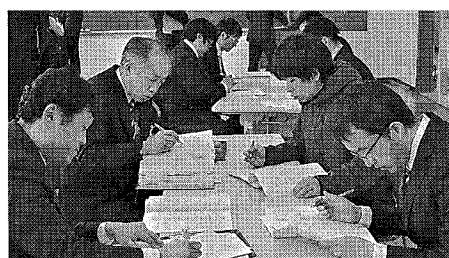
教育課程・学習指導部会



実践テーマ

基礎・基本を定着させ、確かな学力を向上させる
～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

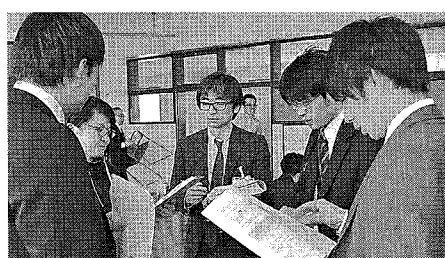
特別活動・生徒指導部会



実践テーマ

- 1 学校行事の共同開催
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践

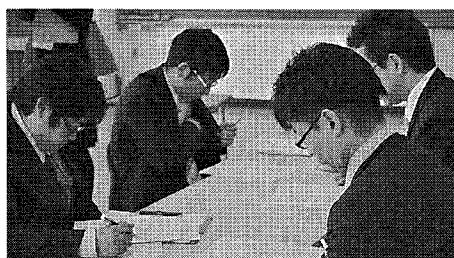
進路指導・総学部会



実践テーマ

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長
- 4 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

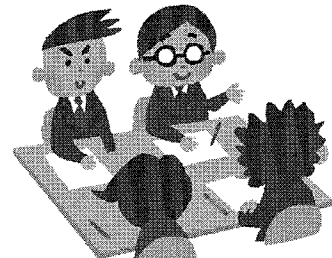
広報啓発部会



実践テーマ

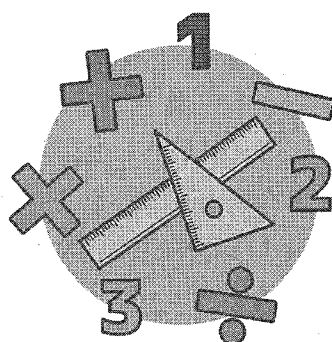
中高一貫だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民に、広尾町中高一貫教育の活動状況等についての発信。

特別支援部会



実践テーマ

- 1 中高の連携・協力した指導方法・指導計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み

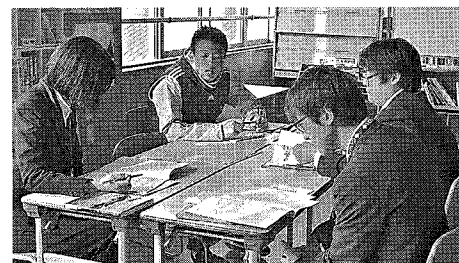


中高教科部会の様子

教科部会では国語科・社会科（地歴・公民）・数学科・理科・英語科・保健体育科・家庭科・養護の8つの部会があります。各教科部会では、生徒の興味関心を高め、学力と指導の質が向上できるよう、広尾町の生徒の実態に合わせ、具体的に実践的なプランを話し合いました。各教科の今年度の実践テーマを紹介します。



国語科部会



実践テーマ

- 1 生徒が論理的に展開する文章を書けるようになるための作文指導の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化に親しむための授業の在り方

数学科部会



実践テーマ

各単元において、基礎的・基本的な知識、技能の習得を目指した数学活動の工夫

英語科部会



実践テーマ

生徒自身が、自分の学習到達度を理解できるCAN-DO-LISTとClassroom Englishの効果的な運用

理科部会



実践テーマ

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間の見直しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発

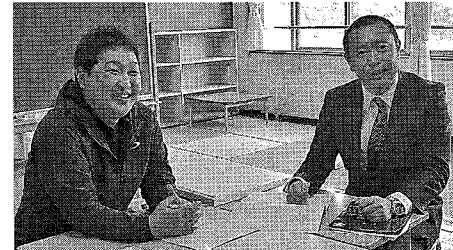
社会科【地歴・公民】部会



実践テーマ

- 1 中高の連携活動を活かした効果的な学習指導の工夫
…基礎・基本の定着を目指した中高相互乗り入れ授業の実践
- 2 中高6年間の学びもれのない、きめ細やかな連携教育を目指した教育課程の研究
…中高基礎学力テストの分析等による、中高6年間を通して重点的に指導すべき学習領域の検討

保健体育科部会



実践テーマ

- 1 中高生の運動能力の現状を把握し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める授業づくり
- 2 異年齢からの支援をうけることで、生徒同士が教えあい、「学び合いの姿勢」を育む

家庭科部会

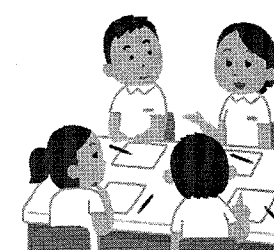


実践テーマ

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統的な学習内容により、家庭生活における基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるTTの実践による生徒個々の能力に応じた個別指導の充実

※TTとはティームティーチングのことです

養護部会



実践テーマ

- 1 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対応策の検討
- 2 生徒・地域の実態を踏まえた保健指導の充実